

深海の大物釣り最強タックル

New ディープゾーンGS

DEEPZONE GS 500-205

●ライト深海からアブラボウスまでをカバーする深場釣り専用竿が新登場。アイテムは全4種、粘りと強度のグラスソリッド総糸巻き仕上げで、貴重なアタリを弾かずフッキング、巻き上げ時のバラシも防止する。ガイドは強度重視のHBガイド、150号、200号はカーボンバット、300号、500号にはメタルバットを採用。リーズナブルな価格にも注目したい。4月発売予定。

アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	適合ハリス (号)	カーボン 有率(%)	メーカー希望 本体価格(円)
150-205・R	2.05	1	163	370	2.0/13.4	80~250	~10	18	49,800
200-205・R	2.05	1	163	400	2.0/14.2	100~350	~16	16	51,500
300-205・R	2.05	1	177	905	3.6/15.4	200~600	~30	1	58,000
500-205・R	2.05	1	177	945	3.6/15.6	250~700	~40	2	60,000



マッドバイパー深海HH-200

●大物釣りのエッセンスを深場釣りに生かしたハイエンド深海釣りロッド。高密度グラスソリッドにX45、ソリッドパワーマキシマム、3DXなどのダイワテクノロジーも満載。全5アイテムのうち、HHは超深海のベニアコウ、アブラボウスに最適タイプ。発売中

●SPEC:全長2m、継数1本、仕舞い寸法174cm、自重880g、オモリ負荷300~800号、メーカー希望本体価格9万8000円(税抜き)

シーボーグ1200MJ

●シーボーグシリーズ最強マシン。キハダ、カンパチ、ヒラマサなどの大物釣りから本格的な深場まで、大物を釣り上げるために誕生した怪物級電動リール。すでに90キロ、50キロのアブラボウスの一荷釣りを記録した実績を持つ。豊富な糸巻き量もあって深場釣りの定番製品ともなっている。発売中。

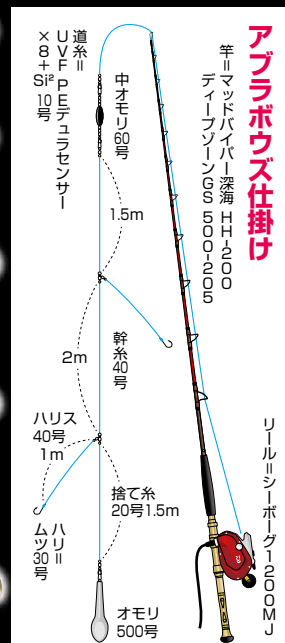
▲豊富な糸巻き量は深場釣りにおいても絶対のパートナー
▼メガツイン機能は巻き上げ中でも指一本で切り替え可能



●SPEC:ギア比2.9、自重2000g、最大ドラグ力33kg、糸巻き量(PE)8号1000m、10号800m、メーカー希望本体価格16万7000円(税抜き)



▲水深は600メートル前後、ゲストにはアコウのほかベニアコウが交じることも
▶海面近くまで暴れるので油断はできない



「潮は緩やかそうだから期待できるよ」と船長。深海釣りは潮の流れが大きく影響する。激流となることが多いこのポイントで、1ノット以下の流れは絶好の条件なのだ。

その予感も現実となった。1投目の着底から約10分後に北本さんの竿に小さなアタリ。すぐに竿を持ち上げるとともにスピッドモードで巻き上げて合わせを入れる。断続的に竿がたたかれる。

「間違いないアブラだよ」と船長の声。北本さんはリールのメガツイン機能を使い、アブラボウスモードに切り替える。マッドバイパーとシーボーグのコンビは大物をとらえても、まだまだ余力十分とばかりスムーズで力強い巻き上げを続ける。

すでに大物釣りファンに絶大な信頼を得ている。

4時に出船し、2時間ほど走って60メートルダチの釣り場に到着する。

「これが後徐々に潮が速くなり、道糸が斜めに引き出されるようになる。こまめにポイントを変えつつ2投、3投と重ね各自1、2度はアタリがあったが、フッキングには至らずじまい。

田淵さんは本命かと思われるアタリがあったが、大きなサメでガックリ。6投目が終わったところで潮はますます速くなり10時に納竿となった。

「これからもまだまだチャンスはあります。このところアコウ狙いでもよく掛かってきますし、ほかにもポイントがありますから」と言う船長に再戦を期す2人だった。

DEEP ZONE GS 500-205

北本茂照、田淵雅生 大物釣り最強タックルで 深海の大物に挑む

●アブラボウスは外洋の水深400~1000メートルに生息し、最大で100キロを超える巨大魚。かつては深海釣りのゲストとしての存在だったが、近年は食味のよさとダイナミックな釣り味が評価され、専門に狙う船も現れている。そんな大物に深場のエキスパート2人が夢の100キロ級を狙って外房大原港から出船した。

★100キロ級もめずらしくない大物、パワフルな引きだけでなく食味も抜群のターゲットだ



THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.63

アブラボウス最前線

at 外房大原港出船



○1投目、あっけなく釣れた26キロ



●マッドバイパー深海が重量感ある引きを受け止める



▲田淵さんは2本バリ仕掛け、4組を持参
▶エサは大きめに、というのが船長の指示

●田淵さんのディープゾーンGSにも大きなアタリがきたが、残念ながらサメだった

深海釣りにはキンメ、アコウをスラズラと引き上げる楽しさもあるが、大物釣りファンにとっては一発大型を夢見てのアブラボウス狙いが魅力的でもある。大物釣りのエキスパート北本茂照、田淵雅生の両氏も同様、アブラボウスのみにターゲットを絞り、外房大原港の鈴栄丸を仕立てた。

「最低でも50キロは釣りたいてすね」と北本さん。

「先日60キロが上がっていきすから期待十分ですよ」と田淵さん。出船前、2人の大物談議は尽きることがない。

これまでアブラボウスは100キロを超える大型も釣り上げられている。このサイズを釣るとなれば、最強のタックルが必要不可欠。2人が持参した竿は北本さんが「マッドバイパー深海HH-200」、田淵さんが「ディープゾーンGS 500-205」、いずれも強靱なパワーを持つ最強の2本だ。

これに組み合わせるリールがビッグモンスター「シーボーグ1200MJ」。怪物級と言われる性能は、

動画連動!



★迫力あるアブラボウスの釣り動画はタイワ船最前線にてご覧いただけます。今すぐアクセス!